

5

東学思想と大巡思想の天人・地人関係の自生的近代性比較

Comparison of Heaven-Human and Earth-Human Relationships

思想の天人・地人関係の自生的近代性比較



目次

発表内容概要



1

問題提起および研究意義

2

人道と神道の天人関係

3

三界観の深化と再定立

4

5

6

比較表:東学と大巡の近代性

7

結論:自生的近代性の含意

問題提起および研究意義



研究背景と学術的重要性

天人・地人関係の自生的近代性比較

研究目的と意義

- 自生的近代性の観点からの比較
西洋とは異なる経路で発展した東アジア固有の近代性を、東学と大巡思想を通じて照明する。
- 天人・地人関係の哲学的深さ:
天-人間、地-人間関係に対する東学と大巡の相違点を分析し、韓国宗教・哲学思想の独特な世界観を把握する。
- 社会変革思想としての意義
両思想が近代韓国社会の形成過程に及ぼした影響と変革的特性を比較分析する。
- 思想的連続性と発展:
大巡思想が東学の「参東学」として継承・発展させた部分と差別化された地点を明確にする。

「東学と大巡の天人・地人関係比較は、韓国固有の哲学的・宗教的伝統が近代化過程においていかに自生的発展を成し遂げたかを示す重要な研究である。」

東学思想と大巡思想の天人・地人関係の自生的近代性比較

人道と神道の 天人関係



人道(人道)



神道(神道)

東学思想

- 「天外天(天外天)」概念の導入
既存の儒教的天概念を超えた超越的存在の強調
- 人道(人道)中心の実践思想
人間ができる最善の実践を通じて天外天と疎通
- 神明への言及の不足
神道(神道)への十分な理解の不足

「東学思想は、人間として成しうる最善を尽くすことにより天外天と疎通する人道人道の道を選択した。」

大巡思想

- 神明(神明)の実質的役割の強調
天地神明を通じた神道(神道)の疎通と構造的変化
- 天地構造の開闢的变化
神道を通じた宇宙的秩序と構造の変革
- 解冤(解冤)と天地構造の変化
怨恨解消を通じた天地人三界の原理の再定立

「大巡思想は、東学思想が「天命」と「神教」という神道を十分に理解せず、神明にほとんど言及せず人道から大きく外れなかったことを惜しむ。」

東学思想と大巡思想の天人・地人関係の自生的近代性比較

三界観(三界観)の 深化と再定立



天(天)・地(地)・人(人)
三界の調和と関係

大巡思想の三界観

- 天地人(天地人)三界を明確に区分し調和を強調
- 人間を天地の媒介者として重視—神人調化(神人調化)
- 人間が神明の調和において仲介者の役割
- 天地の成功の可否は人間にかかる—人間中心的な構図

東学思想の三界観

- 三界観の体系が相対的に弱化
- 天外天(天外天)概念に集中、神明の役割への言及が不足
- 人間中心の実践倫理に集中
- 人道(人道)から大きく外れない体系

「大巡思想は、人間が天地と互換されうるがゆえに人間があつてこそ天地が成功するという天地媒介の人間中心性を、神人調化として明確に言及する。」



大巡思想:三界の調和と人間の媒介

東学思想と大巡思想の天人・地人関係の自生的近代性比較

社会的実践と 道通君子



地人関係の
社会的実現

「地人関係(地人関係)は社会的実践を通じて具現され、理想社会の実現方式において両思想の相違点が現れる。」

🔥 東学思想

- 沁及道儒(心急道儒):心の急ぐ儒学者として現実的变化を追求
- 全国民を両班にする:民衆も両班と平等の実現
- 実践中心:現実における能動的実践と社会変革

「東学は人間実践中心の社会的改革のために平等と均分の価値を強調した。」

▲ 大巡思想

- 道通君子(道通君子):道に通達した聖人の輩出を重視
- 金剛山開闢神仙世界への転換過程
- 地上神仙(地上神仙):現世で天国を実現

「大巡は神道(神道)と人道(人道)の統合を通じて道通君子が主導する後天仙境を志向した。」

地人関係の実践の核心的相違

東学:社会的平等の外的実現中心

大巡:道通を通じた内外的統合の志向

東学思想と大巡思想の天人・地人関係の自生的近代性比較

陰陽五行と 相生調和



木

火

土

金

水

陰陽五行と相生・調和の近代的意義

大巡思想

- 陰陽五行の原理を天地公事と連結し宇宙変化の法則へと昇華
- 相克から相生への転換を通じた後天開闢の実現
- 調和と均衡を通じた天地人三界の変化の促進

東学思想

- 陰陽五行のような自然法則への言及が不十分
- 神明と自然法則よりも人間の実践(人道)に重点
- 社会的変化は強調したが、宇宙的次元の変革の拡張は制限的

「大巡思想は陰陽五行の調和的循環原理を導入し、人間と自然・宇宙を統合する相生の世界観を提示した。」

東学思想と大巡思想の天人・地人関係の自生的近代性比較

東学と大巡の自生的近代性の比較および結論

両思想の比較と含意

現代的意義

区分	東学思想	大巡思想
中心思想	人間中心、人道(人道)	神人調和、神道(神道)
天人関係	天外天、侍天主	神明との相生調和、三界観
社会的実践	沁及道儒、全国両班	道通君子、地上神仙
近代性の特徴	平等運動の原型	弁証法的構造、真東学

総合的結論

- ✓ 自生的近代性の二つの経路:東学は人間中心の平等思想として、大巡は包括的三界観と変革的神道理解を通じて独自の近代性を具現
- ✓ 補完的發展:大巡思想は東学が不完全に扱った神明・神道・陰陽五行を体系化し、「参東学」として発展
- ✓ 現代的意義:西欧中心の近代化とは異なる、東アジア的世界観に基づく自生近代性の代案的モデルを提示

「東学と大巡思想は、西欧中心の近代性とは異なる経路で、韓国の固有な文化的・宗教的土壌において発生した自生的近代性の二つのモデルを提示することにより、現代社会に多元的發展方向を示唆する。」